

知的障害教育研究班 平成 28~29 年度共同研究
インクルーシブ教育場面における知的障害児の指導内容・方法の国際比較
～フィンランド、スウェーデンと日本の比較から～
共同研究外部機関：高知大学（是永 かな子氏）
津田塾大学（渡邊 あや氏）

【本研究の目的】

障害児・者に関する教育や福祉分野の先進国である北欧諸国（スウェーデンとフィンランド）と日本の国際比較から、インクルーシブ教育場面における効果的な指導内容、方法について探った。

研究 1：日本における知的障害のある子どものインクルーシブ教育場面における指導内容・方法に関する現状と課題

- ・我が国の交流及び共同学習に関して、法令等の経緯と教育課程の位置づけを整理
- ・交流及び共同学習に関して実践研究を積み重ねる必要性を指摘

研究 2：日本の交流及び共同学習における指導方法等に関する事例研究

- ・小・中学校 6 校における、知的障害のある子供の交流及び共同学習の実践研究（理科、音楽、体育、外国語活動において実施）

特別支援学級での事前学習

- ・子どもが学習活動の見通しを持てる
- ・交流及び共同学習場面で必要な配慮が分かる

教材の工夫

- ・知的障害のある子供にとって分かりやすい教材
- ・なおかつ通常の学級に在籍する子どもの学習に役立つ教材

管理職を含めた学校全体の協力

- ・通常の学級担任と特別支援学級担任の日常的な打ち合わせ・情報共有



研究 3：北欧諸国における知的障害のある子どものインクルーシブ教育場面における指導内容・方法に関する研究

- ・共同研究外部機関と共に、フィンランドの教育動向、スウェーデンの知的障害のある子供のインクルーシブ教育場面における指導に関して整理
- ・フィンランドの学校視察から、フィンランドにおける障害のある子どものインクルーシブ教育場面における教育の実態を調査

フィンランド

- ・特別教育は通常教育の一環として行うものとして位置づけ
- ・支援の度合いと頻度によって分けられた、「一般支援」、「強化支援」、「特別支援」の三つの段階からなる階層的支援システム
- ・協働教授（Co-teaching）や少人数指導を行うことができる教師の人的配置

スウェーデン

- ・「学級」枠が廃止されており、活動に応じて集団を編成する「活動単位」制を採っている（特別学級も設置されていない）。
- ・全ての子どもに「個別発達計画」を作成することになっている。
- ・インクルージョンを進めるための方策として、「場による統合：敷地的統合（つまり知的障害特別学校と併設）」と「個の統合（障害の有る子どもが障害のない子供集団の授業に参加）」の二つがある。

まとめと考察

今後の日本の実践の参考になることとして、以下の 2 点を指摘

- ①通常の学級担任と特別支援教育担当教員との組織的な協働教授（Co-teaching）の充実
- ②特別な支援の実施の専門性を確保する仕組み（フリーの特別支援教育の専門教員や、専門性のある支援員の人的配置と養成）